

# Fusyo Collaboration letter



12月 4日 No.27 文責 廣田 秀俊

## 幼小架け橋期における学びの充実

1年生のあきまつりが開催されました。今回は附属幼稚園の友だちを迎え、あそびフェスを行いました。幼稚園児の来校を大歓迎する1年生が、お迎えする側となって、一緒に活動していきました。



各クラスに分かれてはじめての会が行われました。遊びの紹介で様々なものが出ていました。どんぐりコースターや葉っぱ釣り、めいろやけん玉、マラカスにまとあて、すもう、ピタゴラスイッチなどもありました。1年生からの「楽しんでください」の声に笑顔で返す幼稚園児のみんな。

ペアになって幼稚園児のお世話係を行ったり、お店に立って遊びを紹介して一緒に遊んだり、活動の時間はたっぷり設けられていましたが、あっという間に時間が過ぎていきました。

終わりの会では、ふりかえりの声が聞こえてきました。

1年生からは「幼稚園生と一緒に遊んだことがなかったので今日は楽しかったです」「もうちょっと遊びたいなあと思いました」「どんぐりごまを楽しんでくれて嬉しかった」と喜びの声が、幼稚園児からは「あきまつりのおもちゃをよく作っているなあと思いました」「いろいろなもので遊べたので嬉しかったです」とこちらからも感激の声が聞こえてきました。



「1年生が心を込めて作ったあそびはどうでしたか？」の声に「楽しかった！」と返す姿が、この時間が充実したものであったことを物語っていました。



本校では、1年生のスタート時の声かけのポイントとして3点あげています。「園ではどうだった？」「どうしたい？」「どうしたらいいと思う？」こうした声かけにより1年生児童への安心感へとつながり、できることややっていったことへの実践へとつながっています。今回はこの言葉かけを1年生が幼稚園児へ投げかけていました。遊びの場面で「どうしたい？」「何をする？」この言葉が、幼稚園児の安心や意欲へとつながっていきました。

幼小連携・接続の取り組みは、こうした交流活動を行うことで、一人一人の成長を促していくことができます。このような連携での学びを行うことで、子どもたちの姿を捉えながら柔軟に展開していっています。



<安心> <成長> <自立> など、幼小連携における架け橋期での学びの充実は、様々な節目や環境の変化においても重要な事柄ととらえ、附属小学校の実践としています。